

花 無 心

ダイジェスト版第 244 号 2021 年 6 月 25 日発行

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演や

グループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。

新型コロナ対策のため、実施について変更可能性もありますので、ご参加を希望される方は、
本会のホームページでの確認をお願いします。

07 月 17 日 (第 3 土曜日)	第 245 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 701 号室
08 月 21 日 (第 3 土曜日)	第 246 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 604 号室
09 月 18 日 (第 3 土曜日)	第 247 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 501 号室
10 月 16 日 (第 3 土曜日)	第 248 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 601 号室

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

サンシップでは駐車券を 2 階事務所にし、「大地の会」とおっしゃってください。無料になります。

サンフォールテでは駐車券を 1 階受付にし、「大地の会」とおっしゃってください。1 時間無料になります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、ご遠慮なく、事務局の携帯 **(090-3768-1733)** にお電話ください。すぐに出られない場合もありますが、受信履歴を見て、こちらからおかけします。悩みを分かち合い、心の負担を軽くしましょう。

非通知のお電話はご遠慮下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>



♪ 6 月例会報告 ♪

日 時 : 6 月 19 (土) 13:30~16:00 サンシップとやま 601 号室

参加者 : 21 名 (男性 8 名 {内体験者 2 名}、女性 13 名) のご参加がありました。

I 来月の例会・ミニ講演について … 事務局より

富山市手をつなぐ育成会副会長の細川瑞子さんをお招きします。

細川さんは、富山市手をつなぐ育成会が富山市から委託を受け、3 年間かけて取り組んだ「親亡き後の相談支援研究事業」の研究主任を務められた方で、「**親たちが、「仲間への信頼」を元に、自ら取り組んだことに意義＝主体性がある。(後略)**」と述べられています。3 年間の取り組みの成果は、「親向けブックレット」「本人向けブックレット」の 2 冊として発行されました。

運営委員会では、新聞記事に感動された会員の要望を受け検討し、ミニ講演会を企画するとともに、ブックレットも富山市育成会から購入しました。7 月例会では、細川さんから発行に向けての**思い・意義・経過**などを語っていただく予定です。細川さんの講演を、本会でも、「親亡き後」を不安に思う親たちが仲間と共に学び、取り組む出発点にしたいと考えております。どうぞ、ご参加ください。

II いつもの話し合い

今回は「コロナ禍における生活について」を全体で、その後 2 つの班に分けいつもの話し合いをしました。

全体 … コロナ禍における生活

・予防接種を受けました。その状況を参考にお話しします。予約は接種券を受け取った日に、インターネット

でした。接種1回目の後は注射跡が少々腫れた程度でしたが、2回目後は少々腫れた他に、5日間程は疲れ易くなりました。今日は6日目です。元気です。

- ・これから先のことで不安にかられるが、この会に出て元気になって帰ります。
- ・①本人がひきこもり対人関係が苦手で受診に行けない。②子は一人暮らしで親との会話がなく外へ出れないと思います。③予防接種をするかは本人の自由ですが親としては受けさせたい等、困っている方が多数発言されました。また富山県内では、ひきこもりと予想される方、9,000人の半数以上の方が悩んでいるのではないかと、懸念されます。
- ・富山市以外のコロナ禍の少ない地域に住んでいます。この会は富山市内で行なわれるので、家族に心配をかけないように欠席していました。でも今日は、参加したいと話すと、家族が車で駅まで送ってくれました。
- ・息子とは手探りの状態。会話なくメモ用紙で、そのメモに刺さるような言葉も。自分（母）が追い込まれていきます。今日初めてこの会に参加し、自分一人ではないと感じました。
- ・月4回知的障害者の方の支援をしています。そこでは社会資源が活用されています。ひきこもりについて、家族会で社会資源を作っていかなければならないと思います。そのため自分は力になりたい。
- ・子は私（母）の接種をネットで予約してくれました。これからどう生きていくか、来月のミニ講演を受講した後、子と向き合いたいと思っています。
- ・带状疱疹に罹った。痛くて、3日間眠ることができず大変だった。昔は医院の玄関から奥へは入れなかったが、今回はすんなり入ることができ、話も出来た。予防接種について、元当事者として現当事者の方の不安が分かります。医者へ行く事が大変です。出来ない事を親から“せよ・やれ”と言われるほど辛いことはない。注射を受けたいが受けることができない人のことを考えてあげて欲しい。
- ・（元当事者）外へ出られないひきこもりの方は、感染のリスクが少なく、接種を受ける気にならないから難しい。家族全員での食事にあこがれている。また（親から）医者へ一緒に行こうとの声かけを待っている。
- ・息子と同じ職場で仕事に就き3年経過、この間息子は自分から休んだことはなく、良くやっていると思っている。
- ・元不登校の子は、学習の機会が少なかった。そのため幅広く学習支援をしていきたいと準備中です。

Ⅲ その他

- 1 例会ではなかなか十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど。日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか？約20分間程度を予定しています。
- 2 投稿欄について
会員の皆さまから、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。投稿される方は、後日、読まれた方から問い合わせ等がある場合がありますので、できればお名前をお書き下さい。
- 3 **令和3年度ひきこもり研修会/子どもの心の健康セミナーのご案内**
期日：7月29日（木） 14:00～16:00 会場：富山県民会館401室
主催：県心の健康センター、（公社）富山県精神保健福祉協会
演題：「発達障害特性を持つ本人と家族への支援 ～その方向性の見つけ方～」
講師：谷野呉山病院 副院長 榎戸英佐子先生



***参加ご希望の方は、本会から申し込みますので、7月14日（水）までに、山岡までご連絡ください。**

富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00（要予約）

グループ相談を実施しています。

- ・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

（親グループ相談が、新規に行われます。）

IV つくしの会より(2003 年設立)

高岡内 2 カ所で、今はコロナ禍ですので、話し合い中心の例会を行っています。

1 例会の予定

■月例会： 日曜日 pm1:30～高岡市博労公民館、研修室

○実施日： 7 月 11 日、8 月 8 日、9 月 12 日

※ 12:00～世話人会

■ おとぎの森定例会：毎週水曜、pm2:00～高岡おとぎの森・森のふれあい館研修室

○実施日：7 月 7 日、14 日、21 日、28 日。8 月 4 日、18 日、25 日、(11 日はお盆休み)。9 月 1 日、8 日、15 日、29 日。(22 日は休み)

■研修等

○7 月 3 日 4 日：鉄道弘済会・ 社会福祉セミナー「ひきこもりと社会福祉」オンラインで開催
10:00～16:00

○7 月 29 日(木)ひきこもり研修会：富山県民会館

○8 月 1 日(日)映画会：「稲の旋律」予約不要無料ウィングウィング高岡 7 階

○9 月 22 日(水)午後サポステ交流会&セミナー：ウィングウィング高岡 6 階研修室

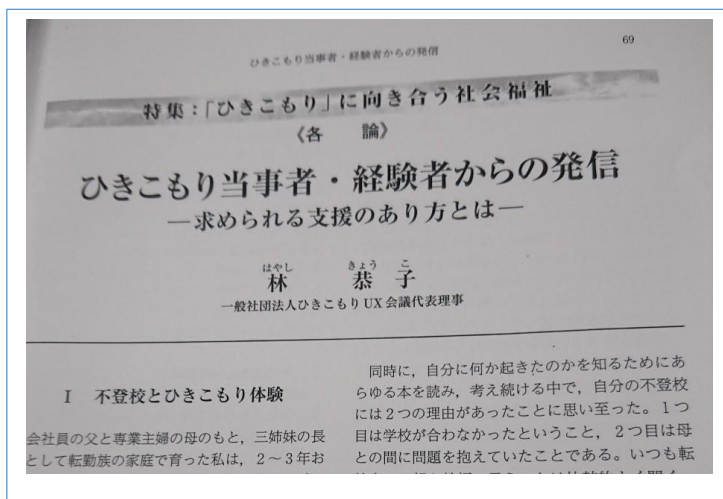
○土曜ドラマひきこもり先生：土曜 pm9:00～ NHK

2 つくしの会へのお問い合わせ

☎090-3768-1733(大地の会)からつくしの会へ連絡、または、☎090-4684-5071(宮川)まで

V 書籍・論文の紹介 『ひきこもり当事者・経験者からの発信-求められる支援のあり方とは-』

著者：林 恭子



著者の林 恭子さんは、(一社)ひきこもり UX 会議〔不登校、ひきこもり、発達障害、セクシャルマイノリティの当事者・経験者らで構成される当事者団体〕の代表です。さまざまな背景に因る「生きづらさ」を「Unique eXperience」(＝固有の体験)として捉え、ひきこもりの体験こそが、時にだれかを救い、社会をよくしていくために必要な「財産」であると考え、(会の諸活動)を通じ、当事者の声を発信しています。

左記の論文は、『社会福祉研究』140 号に掲載されています。林さんは、もう一度この社会の片隅でも生きていこう、と思えるようになるまで 20 年という年月がかかった、と書いています。浅学の私にとって、ひきこもる人の苦しみの理解が、この論文で少しですが深まりました。『社会福祉研究』は、サンシップ 2 階の図書室に開架されています。

(やまおか)

VI コロナワクチン接種について

新型コロナウイルスワクチンは、接種することで、個人の発症・重症化予防や、社会全体での感染症の流行を防ぐことが期待されています。しかし、ひきこもり状態にあるご家族が、医療機関や接種会場に出向いて、接種することに応じるか不安を感じている方もいらっしゃると思います。

お困りの方は、まず、居住の市町村の予約相談センターに相談して下さい。それでも、接種の見通しが立たない場合は、例会の折、または、会のホームページや電話でご相談ください。